国際部報告

世界の鍼灸コミュニケーション　“スポーツ鍼灸”
ーポルトガルにおける鍼灸ー

谷口　剛志

明治国際医療大学鍼灸学部
NPO TRAINER'S BANK
ポルトガル電気鍼協会
クリニカ土屋ペインクリニック
SLBクリニカベンフィカ

要　旨

ポルトガルの医療は、国民の税金で構築された国民保険サービスにより医療を受けることが出来る。しかし、医療の質や量、経済格差等の問題により、全ての国民に充分な医療サービスを提供することが出来ておらず、緊々の課題とされている。西洋医学以外の医療は代替医療（CAM）として、国民保険サービス以外の民間医療として取り扱われている。CAMには、中国伝統医学（TCM）、マッサージ、指圧、ホメオパシー、オステオパシー、自然療法、植物療法など様々な医療が含まれ、鍼灸もCAMの中に入る。2013年9月2日、ポルトガル政府は鍼治療、理学療法、ホメオパシー、伝統的な中国医学（TCM）、自然療法、オステオパシーおよびカイロプラクティックに関する新しい規制を決定した。私が所属する明治国際医療大学は2012年10月にポルトガル共和国総合スポーツクラブ「Sports Lisboa e Benfica」と連携協定を締結、翌年9月にはスポーツ障害に対する医療技術の交流を進め、傘下のプロサッカークラブの選手のケアに鍼灸と柔道整復を生かすとともに、教職員の相互派遣を進め、学生が現地でインターンシップ等を通じて一線のプロ選手を支える技術を学ぶことを目的に「CLINICA BENFICA」と国際交流協定を締結した。2015年よりベンフィカで日本鍼灸の知識・技術交流などの活動を行なっている。

キーワード：ポルトガル、医療制度、スポーツ鍼灸、代替医療、
スポーツ再適応プログラム

著者連絡先：谷口　剛志　〒629-0392　京都府南丹市日吉町　明治国際医療大学
Corresponding Author; Taniguchi Takeshi　Meiji University of Integrative Medicine, Hiyoshi-cho, Nantan-shi, Kyoto 629-0392, Japan

Ⅰ．プロローグ

写真1．ユーラシア大陸最西端の岬“Cabo da Roca”

ユーラシア大陸最西端に位置する国、ポルトガル。

1549年の南蛮渡来を機に、日本文化にも強い影響を与え、15世紀の大航海時代に全大陸に領土を持つ偉大な国として栄華を極め、その名残が現在も色濃く残っている。ポルトガルの古い諺で、“E quem não viu Lisboa, não viu cosa boa（リスボンを見ないことは、美しいものを見なかったに等しい）”とあるように、全長850kmしかない長方形の小さな国だが、色とりどりの香りを放ち、澄んだ空に吹き抜ける心地良い風、パステルカラーの家々、家をあしらうアズレージョのタイル、大西洋に沈む黄色の夕日、濃厚なポルトガルワイン、大西洋の恵みがもたらす料理、伝統的なお菓子など、多くの人々を魅了する素敵な国である。その首都であるリスボンには、ポルトガル全人口の約30％が集中し、ヨーロッパの中でも大きな都市圏を形成している。近年では観光客も増え、毎年1500万人を超える人々がリスボンを訪れる。

私は2015年5月からリスボンに住み、現在も日本のライセンスを持った鍼灸師として様々な現場で活動している。今回は私の活動を通じて、ポルトガルにおける鍼灸の現状や今後の展望について御紹介したい。

Ⅱ．ポルトガルの医療について

ポルトガルの医療は、国民が納める税金で構築された国民保険サービスにより提供される医療を受けることが出来る。日本の国民皆保険制度に近い印象を受けるが、医療の質や量、経済格差等の問題により、全ての国民に充分な医療サービスを提供することが出来ておらず、緊々の課題とされている。ポルトガル政府の展望としては、官民一体型の新しい病院経営、病院経営の構造改革、医薬品改革、プライマリケアの再編、長期ケアネットワークの創設などを掲げ、多くの措置が採択されているが、近年の経済危機により国内のGDPは落ち込み、失業率も年々増加していることから、2013年に世界保健機構総会において、欧州連合とポルトガル保健省の二国間で会議が行なわれ、健康制度の資金調達および経済危機による医療サービスの劣化が焦点となり、現在も問題解決に向けた取り組みがなされている。

ポルトガルにおいても西洋医学以外の医療は代替医療（CAM）として、国民保険サービス以外の民間医療として取り扱われている。CAMには、中国伝統医学（TCM）、マッサージ、指圧、ホメオパシー、オステオパシー、自然療法、植物療法など様々な医療が含まれ、鍼灸もCAMの中に入る。鍼灸については、TCMの影響が強く、民間が運営する学校で取得した修了証で持って開業し、国民自身が選択し、実費診療という形で受療していたが、規制のない代替医療の乱立、国内の医療制度問題、昨今の経済状況等を踏まえ、ポルトガル政府は2013年9月2日に代替医療に関する規制を制定した。

Ⅲ．代替医療（CAM）の規制について

2013年9月2日、ポルトガル政府は鍼治療、理学療法、ホメオパシー、伝統的な中国医学（TCM）、自然療法、オステオパシーおよびカイロプラクティックに関する新しい規制を決定した。2003年にCAMの治療法が承認されて以来、約10年を経て、新しい規制の施行である。

ポルトガルで代替医療のライセンスを取得するには、専門免許と高等教育が必要となる。理学療法に関しては高等教育機関が設置されている為、

日本同様、大学教育を受けた後のライセンス発行となるが、その他のCAMに関しては高等教育機関がなく、民間に委ねられている。従って、新しい規制では、高等教育資格を持った政府が認可した団体や開業医などの専門家に委ねられ、約4,000時間の専門教育を受けた後に、政府がライセンスを発行するという形になっている。このライセンスも永久ライセンスではなく、2年毎の更新制として、政府のチェックが入ることとなっている。これまでドクターのみにしか許可されていたこれらCAMがようやくノンドクターにも許可されたこととなる。保険の適用はドクターのみとなっており、それ以外の従事者は実費診療という形にはなるが、公的機関の登録ライセンスとして一歩踏み出し、国内のニュース等でも取り上げられている。

Ⅳ．CAMの高等教育機関の現状について

先程も触れたように、ポルトガル国内における高等教育機関はいまだ整備されていない。2016年5月、CAMの高等教育機関設置運動が活発となり、17大学がCAMのコース設置申請を行なったが、12大学は却下、5大学は継続審議となったが、いまだ理学療法を除くCAMのコース設置には至っていない。設置申請不可の理由としては、運営面での問題が指摘されており、教育内容やレベル、マンパワー等が考えられる。

2016年6月9日、本学の客員教授であり、CLINICA BENFICAのドクターであるDra. Maria João Cascaisからの要請を受け、ポルトガル・リスボンにあるUniversidade NOVA de Lisboa Medical school（写真2）にて、医学部1回生40名のクラスを対象に講義を担当した。東洋医学に触れるのはこれが初めてらしく、皆興味深々の面持ちで着席していた。

テーマは、「Usefulness of examining tender point for evaluating physical conditions in athlete」。このテーマは自身の研究活動の内容であり、体表の経穴の反応を探って、アスリートのコンディションチェックを行なう方法である。すでにSLB CLINICA BENFICAやBENFICA Football campusでもPrevention program（予防プログラム）、

写真2. Universidade NO VA de Lisboa Medical school

Performance management（パフォーマンス管理）の方法として実践しており、選手やフィジオからも高い評価を得ている。

パフォーマンス低下要因である疲労の状態を、機器に頼らず、鍼灸臨床で多用される“経穴”と日本鍼灸の良さである“触診”をミックスしたこの評価方法は、簡便で、時短で、非侵襲性であるため、現場でも活用しやすい。疲労の状態を科学的な根拠で示す必要がある為、臨床現場でも簡便に取れる自律神経系（Heart rate）と、生化学系（Salivary, Urinary）のデータを加えて、経穴の圧痛数との関連性を説明した。プレゼンテーション後には多くの御質問を頂き、学生達に興味を持って頂くことが出来た。また、学生からぜひ受けてみたいとの申し出を頂き、少しの時間ではあったが、疲労評価のデモンストレーションを行なった。医学部での講義を通じて、東洋医学の関心度の高さを肌で感じることが出来た良い経験となった。（写真3・4）

現在の状況としては、Pos Gradiação（卒後研修）の設置運動が活発となり、CAMの高等教育推進が試みられており、これからますます設置運動が活発になると予想される。

写真3. Medical schoolでの講義

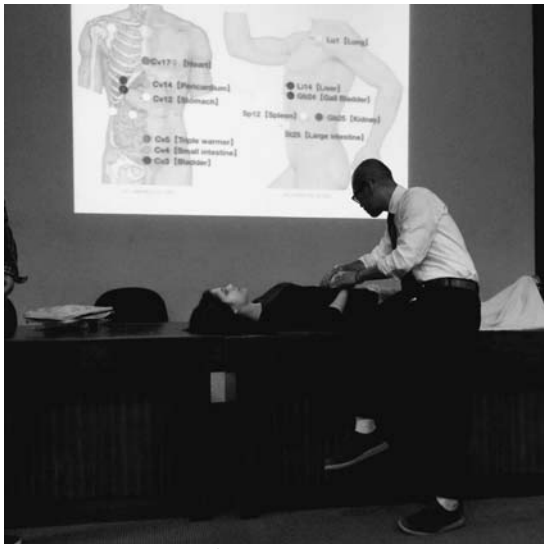

写真4. デモンストレーション

Ⅴ. BENFICA PROJECTについて

私が所属する明治国際医療大学は2012年10月にポルトガル共和国総合スポーツクラブ「Sports Lisboa e Benfica」と連携協定を締結、翌年9月にはスポーツ障害に対する医療技術の交流を進め、傘下のプロサッカークラブの選手のケアに鍼灸と柔道整復を生かすとともに、教職員の相互派遣を進め、学生が現地でインターンシップ 等を通じて一線のプロ選手を支える技術を学ぶことを目的に「Benfica Clinic」とスポーツ医療や人材育成に関する国際交流協定を締結した。締結後、毎年学生の研修を行ない、国際交流を図ってきたが、より密な連携、関係構築を目的に、2015年より私が派遣され、ベンフィカで日本鍼灸の知識・技術交流などの活動を行なっている。

現在私はA.P.A.E（ポルトガル電気鍼協会）メディカルグループに所属し、メディカルグループの副理事である土屋光春氏が運営するペインクリニックおよび、同グループ理事長であり、ベンフィカメディカルグループのディレクターでもあるDr. Joãoに御指導頂きながら、SLベンフィカでも活動している。

ペインクリニックでは一般の方を対象に様々な疾患に対する鍼灸治療を行なっている。取り扱う疾患は以下の通りである。

The main complaints（主な愁訴）

1）Orthopaedic（運動器系）
frozen shoulder, low back pain, knee pain
2）Internal medicine（内科系）
abdominal pain, diabetes, asthma
3）Sensory（感覚器系）
tinnitus, dizziness, glaucoma, sinusitis
4）Spirit（精神科系）
insomnia, manic-depressive
5）Gynaecological（婦人科系）
infertility, menopause etc
6）Urological（泌尿器系）
ED, prostate cancer, kidney stones etc
7）Paediatric（小児科系）
nocturnal enuresis, crying

日本同様、運動器疾患を始め、様々な愁訴を持つ患者が毎日訪れ、鍼灸治療を受けている。患者の多くは口コミで訪れ、西洋医学では解決出来ない問題や自ら選択してクリニックを受診する方が多い。約35年ポルトガル・リスボンの地で開業し、多くの患者一人ひとりに向き合ってこられた土屋先生の御尽力の賜物である。

ベンフィカではスタジアム内にあるベンフィカクリニック（写真5・6）にて、ベンフィカ所属の

アスリートのケアやコンディショニング、リハビリを担当している。

写真5. Estadio da Luz

写真6. CLINICA BENFICA

当初はドクターやスタッフ達の鍼灸治療に対する認知度が低く、鍼灸治療を実践することが出来なかったが、2年目からはフィジオや選手自身からのオーダーが増え、現在では一日5～6件を取り扱っている。主に担当しているのは、陸上、ラグビー、バスケットボール、柔道、水泳である。オーダーは、従来のリハビリテーションプログラムでは改善が見られないケースが多く、特に術後の疼痛管理や運動機能の改善が主である。実際にリハビリテーションプログラムの中に鍼灸治療を介入させると、それ以降のアスレティックリハビリテーションがスムーズに行えるケースが多く、アスリハがスムーズに行えることで競技への早期復帰も可能となる。常にベンフィカのフィジオ達と意見交換をしながら、再適応プログラムとしての鍼灸治療の介入を検討し、現在プログラム化を進めている。また、自身の研究テーマでもある募穴診を用いたコンディショニングチェックも数件依頼が入るようになり、週1回のペースで選手のコンディション管理を行なっている。（写真7）

写真7. 募穴診を用いたコンディションチェック

Ⅵ. スポーツ再適応プログラムについて

スポーツ再適応プログラムとは、個人が持つ自然治癒力を最大限に引き出し、競技特性に応じたトレーニングを行なわせ、現場への早期復帰、再発予防、パフォーマンスアップを目的としたプログラムと位置づけている。すなわち、復帰を目指すリハビリテーション時の痛みに対し、鍼灸治療を介入することによりコントロールし、手技やテーピング等を用いて、アライメントや動きを修正し、適切なポジションでトレーニングを行わせることを目的としている。現在、様々なケースに導入し、プログラム化を進めている。再適応プログラムの一例を以下に挙げる。

症例（Bankert lesion術後）

1）種　目：ラグビー

2）現病歴：競技中に反復性肩関節脱臼に伴い前下方関節唇損傷を発症。すぐに手術を受ける。術後疼痛および関節可動域の制限が著しい為、フィジオから相談・依頼を受け、3週間後に再適応プログラムを開始。

3）評　価

①疼痛部位

手術痕（肩関節前方）、肩甲挙筋付着部

②拘縮部位

大胸筋、僧帽筋、上腕二頭筋、棘上筋・棘下筋、前鋸筋

③ROM

屈曲60°/伸展10°/外転60°/内転 full/外旋20°/内旋 full

④代償動作

屈曲時の胸郭挙上、肩甲骨挙上

⑤経絡経穴反応

肺経、大腸経の火穴反応から同経脈・経筋異常が考えられる。

4）治療内容

①目的：疼痛管理、拘縮改善

②部位

Local Points（手術痕、肩甲骨上角、肩井、肩ぐう、肩髎、天宗）（写真8）

Meridian Points（経渠、尺沢、商陽、二間、天府）（写真9）

③方法

高周波鍼通電療法（100Hz）

低周波鍼通電療法（0.8Hz10min）

5）結　果

治療直後より疼痛軽減、可動域（屈曲・外転外旋）の改善

ROM：屈曲110°/伸展20°/外転90°/外旋45°

一般的なBankart修復後のリハビリテーションの流れは、

①0-4週　振り子運動、自動運動

②4-6週　背臥位で肩屈曲140°/外旋45°までの自動・他動運動

③6-12週　段階的にROM拡大、筋力強化は肩関節90°以下で実施

④12週以降　積極的な筋トレ

⑤6ヶ月後　スポーツ復帰

となっているが、今回のケースでは鍼灸治療を早期に介入させることで疼痛軽減、ROM改善につながり、スムーズにアスレティックリハビリテーションへ移行させることが出来た。選手からは「運動療法時の痛みが非常に少ないことから、積極的にリハビリに取り組みやすい」とコメントを頂き、また、共に担当しているフィジオからも「早期から多くの運動が実施出来るので、現場にも早く復帰させることが出来る」と評価を頂いた。

写真8. Local Pointに対する治療

写真9. Meridian Pointに対する治療

Ⅶ. エピローグ

ポルトガルで活動を始めて約2年が経過した。活動を始めた頃は言葉も出来ず、自分の考えや想いを伝えられないもどかしさや鍼灸の認知度の低さや理解不足により現場で鍼灸が使えない悔しい

日々を過ごした。しかし、ポルトガルでの経験を通じて、改めて東洋医学、鍼灸治療の懐の深さ、魅力を再確認することができ、初心に戻ることが出来た。東洋医学の可能性を信じて、これからも医療の分野に限らず、活動を拡げていきたい。

ポルトガルではまだまだ日本の鍼灸の情報が少なく、伝わっていない。関心度は高いが、情報量の少なさに起因しており、共通言語（英語）による情報発信が課題である。しかし、ポルトガルに比べると、日本の鍼灸教育制度やライセンス制度はレベルが高く、整備されている。これからの若い鍼灸師の皆さんには自信と誇りを持ってチャレンジして頂きたい。

ポルトガルに限らず、異国でのチャレンジは困難なことばかりだが、怖れず挑戦することで、見えてくる光がある。行動あるのみ。

謝　辞

ポルトガルでの活動にあたり、日頃から御指導賜っているA.P.A.E副理事、CLNICA TSUCHIYA院長、土屋光春氏に厚く御礼申し上げます。

ベンフィカでの活動の御許可頂き、御指導賜ったA.P.A.E理事、SPORTS LISBOA e BENFICAのディレクターであるDr. João Pereira Almeida氏ならびにUniversidade NOVA de Lisboa Medical schoolのDra. Maria João Cascaisに厚く御礼申し上げます。

BENFICA PROJECTの活動を御支援頂き、御指導賜った本学谷口和彦理事長、岩井直躬学長、矢野忠副学長にこの場をお借りし厚く御礼申し上げます。

最後に今回の原稿を御依頼下さった全日本鍼灸学会国際部の皆様に厚く御礼申し上げます。

International Congress Report

Global Communications on Acupuncture “Sports Acupuncture” -An introduction to the “Acupuncture in the Portugal” -

TANIGUCHI Takeshi

Assistant Professor, Meiji university of Integrative Medicine
NPO TRAINER’S BANK CEO
A.P.A.E (Associação Portugal Acupuntura Elétrica) Professor
CLINICA TSUCHIYA Acupunctuirst
SLB CLINICA BENFICA Acupuncturist

Abstract

All residents in Portugal have access to health care provided by the National Health Service, financed mainly through taxation.However, due to problems such as medical quality and quantity, economic disparity, etc., it has been impossible to provide sufficient medical services to all citizens, and it is regarded as an urgent task.The regulated CAM therapies are acupuncture, homeopathy, osteopathy, chiropractic, naturopathy and physiotherapy.

Meiji university of integrative medicine had collaboration and agreement with the Portuguese Republic General Sports Club "SPORTS LISBOA E BENFICA" in October 2012. In September of the following year, we had collaboration and agreement with the"CLINICA BENFICA" about exchanges of medical technology for sports injuries, besides taking advantage of acupuncture and moxibustion and judo therapy in the care of club players, promoting mutual dispatch of faculty and staff. Students will learn the technology to support professional players through in "CLINICA BENFICA".

I'm work on doing activities such as knowledge and technology exchanges of Japanese acupuncture in "CLINICA BENFICA" from 2015.

Zen Nihon Shinkyu Gakkai Zasshi (*Journal of the Japan Society of Acupuncture and Moxibustion*: *JJSAM*). *2017*; *67*(*4*): *379-386.*

Key words: Portugal, medical administration system, acupuncture for sports, alternative medicine, readaptation program for sports